

○金沢市DXアクションプランの推進に対するご意見・ご提案

- ・金沢市で災害が起きた場合に、通信インフラの維持ができるのか。
→現状は不十分だと認識しており、次年度以降に整備を進めていきたい。
- ・公式アプリを公式LINEへ移行する自治体も出てきている。
- ・LINEは表現に限界があるが、気軽に登録してもらえる利点があるので、アプリとLINEどちらが良いかは検討していかなくてはいけない。
- ・人流データをオープンデータにすることで、教育や地域活動などの場面で活用できるので、金沢市で人流データを活用する際にはオープンデータにすることを考えてもらいたい。
- ・防災DXは平常時に取組んでいないと、災害時には使えないので今のうちから取組んでもらいたい。

○今後のデジタル人材の育成について

- ・デジタル行政推進リーダー研修の女性割合が2年目に増えているのは何か理由があるのか。
→1年目は男性が多かったため、2年目は女性に参加への声かけをした。今年度は、自薦で20名のリーダーが集まったため、声かけはしなかった。
- ・DXアドバイザーはDX推進リーダーの中から人選するのか。
→DX推進リーダーであることを条件とはしないが、人選についてはこれから検討していきたい。
- ・庁内DXプロジェクトチームへの参加者は、デジタル行政推進リーダー60名からの9名ということだが、参加者数はどう評価しているか。
→能登半島地震への対応のため、各課で職員を派遣していた時期の参加者募集であり、9名集まってくれたのは多かったのではないかと評価している。
- ・DXアドバイザーへ任命する際には、個人の持っているスキルを把握する必要があるため、デジタルスキルマップを作成していくことも検討していくと良いのではないかと。
- ・DXアドバイザーの位置づけは、横断的なものになるのか。
→DXアドバイザーについては、人数が増えてくれば部局毎に配置ということも可能になるが、今のところは横断的に全ての部局を担当してもらおう。